



ART AQUARIUM

金魚図鑑



多彩な金魚たち

アートアクアリウムでは
様々な特徴をもつ個性的な金魚を多数ご鑑賞いただけます。

その美しい姿に魅了されるのはもちろん、
人懐っこい金魚たちに癒されませんか？

ぜひお気に入りの一匹を見つけてみてください。

ご鑑賞いただける金魚を一部ご紹介します。

アートアクアリウム美術館の金魚たち

和金型

金魚の原種であるフナに最も近く、スリムな魚らしい体型の品種。
中国で生まれた金魚を日本で改良したものであり、そこから「和金」と名づけられました。

和金 (ワキン)



金魚すくいでもおなじみの、オーソドックスな日本の金魚。同じ和金でも、尾ひれが分かれた「三ツ尾和金」もいます。館内では“金魚の滝”や“金魚の竹林”で見ることができます。

コメット



和金をベースにアメリカで生まれた「彗星」の意味を持つ金魚。細長い胴体と長い尾ひれで素早く泳ぎます。アートアクアリウム美術館のシンボル作品でもある“帯舞”の中で泳いでいます。

地金 (デキン)



愛知県の天然記念物。和金タイプのフォルムに、X字に開いた尾ひれ、六鱗(ろくりん)と呼ばれる体色を持ちます。尾ひれは名古屋城の「しゃちほこ」を連想させます。

ブリストル朱文金 (シュブンキン)



日本からイギリスに渡った朱文金が改良されて生まれた、イギリス原産の金魚。最大の特徴はハート型の尾ひれ。錦鯉のようなキャリコ柄も美しく、愛好家も多い種類です。

琉金型

体が丸く、背が高くもり上がっている品種。江戸時代に琉球(現在の沖縄県)から薩摩(現在の鹿児島県)に持ち込まれたと言われており、「琉金」と名づけられました。

琉金 (リュウキン)



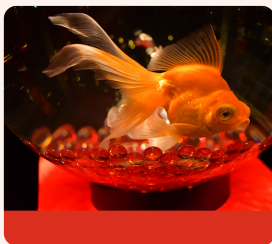
丸いフォルムと優雅な長い尾を持つ、金魚の代表的な種類。紅白の混じった「更紗」や「桜琉金」のほか、ショートテールなど、館内にはいくつもの種類の琉金があります。

土佐錦 (トサキン)



“金魚の女王”と称される、高知県の天然記念物。前方が反転した大きな尾が特徴。アートアクアリウム美術館の家紋シルエットの金魚は、この土佐錦をモチーフにしています。

出目金 (デメキン)



読んで字のごとく、眼が左右に飛び出した金魚。琉金の突然変異から生まれました。成長していくにつれて、徐々に目が飛び出ていきます。

蝶尾 (チョウビ)



左右に突き出した大きな目と、はねを広げた蝶のような尾ひれが特徴の金魚。更紗(2色)やキャリコ(3色)など、体色のバリエーションも豊富な種類です。

アートアクアリウム美術館の金魚たち

オランダ獅子頭型

頭部に肉瘤(にくりゅう)というコブが大きく発達している品種。頭のコブが獅子(ライオン)に似ていることから「獅子頭」と呼ばれています。

オランダ獅子頭 (シシガシラ)



頭の大きな肉瘤(コブ)から獅子頭と名が付き、さらに舶来物には異国のものの意味で「オランダ」と付けていた江戸時代に中国から輸入されたことから、この名前になりました。

東錦 (アズマニシキ)



オランダ獅子頭と三色出目金の交配で生まれた、大きな体と肉瘤(コブ)が特徴の金魚。館内には、このほかに東錦と同じオランダ獅子頭から派生した種類の金魚も泳いでいます。

丹頂 (タンチョウ)



輝く白銀の体に、頭の上の赤い肉瘤(コブ)が特徴的な金魚。オランダ型の特徴であるボリュームのある体を持ちます。帽子をかぶっているような赤い肉瘤(コブ)は、一目見たら忘れられないインパクトを与えます。

同じオランダ獅子頭でも
異なる体色を持つ種類も！
いろんな色を見つけてみてね



らんちゅう型

背びれがないという特徴をもつ品種。その丸くて大きな体でゆっくりと泳ぐ姿がとっても優雅で、「金魚の王様」といわれている種類です。

らんちゅう



“獅子頭”と呼ばれる肉瘤(コブ)が発達した頭と、背びれのないぷっくりとした体の特徴。愛好家も多く、“金魚の王様”とも称されています

頂点眼 (チョウテンガン)



真上を向いた目と、背びれのない独特なフォルムが特徴です。出目金の突然変異といわれており、視力は弱いのですが、代わりに嗅覚が優れています。

南京 (ナンキン)



出雲地方で古くから飼育されてきた希少な種類で、島根県の天然記念物。背びれのない体と、四ツ尾とよばれる尾ひれが特徴。土佐錦、地金と並ぶ「三大地金魚」とされています。



水泡眼 (スイホウガン)



目の下の大きく発達した水泡状の袋は、下まぶたにあたる部分が肥大化したもの。この袋は、目を保護するのにも役立っています。ぷっくりしたほっぺにも見えるその姿がとっても可愛い金魚です。

ご来館日によってはご覧いただけない金魚がいる場合がございます。

金魚の不思議を紹介！自由研究のネタにもなるかも！？

1. 金魚の祖先は？

金魚は、もともと中国に自生していた「フナ」の仲間から長い年月をかけて育種されたものです。

🔍 様々な存在する金魚の品種。その品種には、長年の研究であるかけ合わせの特徴がありそうですね！

2. 金魚はいつ日本にやってきたの？

金魚は室町時代、中国からやってきたと言われています。

なお、品種改良を繰り返し行い、金魚が庶民の鑑賞文化へと発展したのは江戸時代です。

🔍 有名な「金魚売り」は江戸時代に生まれました。さて、どんな人が金魚を売っていたのかな？

3. 金魚は胃を持たない「無胃魚」という特徴を持っています。

そのため、一度にたくさんの餌を食べることは避けることが推奨されています。

🔍 「無胃魚」はほかにもいるらしい！どんな魚でどんな特徴があるのかな？

4. 金魚には天然記念物がいるらしい！

特定の地域だけの品種として「天然記念物」に指定されているものがあります。

有名な「地金(ちぎん)」は、愛知県の天然記念物に指定されています。

🔍 全国には4種類の金魚が天然記念物に指定されているらしい！



よくある金魚に関する質問



Q. 金魚が水面で口をパクパクしているのはなぜ？

金魚は人に懐くと言われており、特に朝や夕方は餌をもらえと思ってパクパク近づいてくることがあります。
酸欠では？と聞かれることがありますが、金魚はえら呼吸なので基本的に口では呼吸をしてないのです！

Q. ぶくぶく（エアレーション）が無い水槽があるのはなぜ？

気泡が出ていない水槽は、下部の装置で水槽内の水に酸素を取り込んで循環させています。
えら呼吸する金魚にとって最適な環境に設計しています。

Q. 水中で動かずじっとしている金魚が居るのはなぜ？

寝ているからです。金魚にはまぶたが無いので寝ている時も目が開いています。
午前中や夕方に寝ている金魚もいますので観察してみてくださいね。



◀こちらで様々な金魚の楽しみ方をご案内しています